

五色町広石地区のクロコノマチョウ

浅田 卓

淡路島におけるクロコノマチョウ (*Melanitis phedima* CRAMER) の記録は、1971年8月武田義明氏が洲本市相川で採集されて以来、筆者採集分を含めて現在まで6例(成虫)を教えている。

1. 洲本市相川, 1♂, VIII. 1971, 武田¹⁾
2. 三原郡南淡町大川〔左前翅を拾う〕16. XI. 1974, 山崎²⁾
3. 三原郡南淡町新田北, 1♂, 30. X. 1977, 浅田³⁾
4. 洲本市物部, 1♂, 6. IX. 1978, 堀田⁴⁾
5. 津名郡五色町広石中, 1♂, 11. X. 1979, 浅田⁵⁾
6. 津名郡五色町広石中, 1♂, 2. VIII. 1980, 浅田⁶⁾

1979年10月、津名郡五色町での採集記録は島内における、それまでの最北のものであった。しかし、当日は台風一過間もない頃であり、島外又は島内の南部から飛来したことも考えられるので、果たして同地にて発生した個体なのかどうかは不明であった。ところがその採集地に隣接した谷筋で、1980年7月1頭目撃、さらに8月1♀を採集するにいたってあるいは同地にて土着?の希望が見えてきたのである。淡路島における本種の採集例はすべて成虫であったので、食草が何であるかを含めて他のステージの発見は土着を確認する上からも意義は大きいと思われた。

食草としては、ススキ・ジュズダマ・アブラススキ・チョウセンカリヤス・カリヤスモドキ・チヂミザサ・アシボソ・メヒシバ・ササキビなどのイネ科、カヤツリグサ科のナルコビエなどが知られている。⁷⁾ 広石中の谷筋では、幼虫の好むとされている「常緑広葉樹林の周辺の小さな溝ぎわなどに生えたススキの孤立した群落」⁸⁾が点在しており、まずこれらを中心に調査した。

8月24日、1♀を採集した日より約3週間経過、やや汚損個体であったこと、次世代の発生時期から考え合わせて幼虫期であることが予測された。同地はV字溪谷に近く、終日日光の直射しにくい地点も多いため、そうした箇所にも自生するススキ群落に目標をしばった。まず1♀採集地点のススキ葉裏から、真黒な頭をした中令幼虫が発見された。頭部に棒状突起1対をつけ、体長20mm程である。当然付近にまだひそんでいると思われたが他にはおらず、さらに奥へと進んだ。7月の目撃地点に近づくと、今度は体長50mmに達すると思われる終令幼虫が発見された。常に頭を下に向け、葉裏に静止する幼虫はこの後極せまい範囲

で次々と見つかった。慣れて来ると終令の食痕は極めて明白で、ススキの葉脈を残し、片側、あるいは両側がなくなっている付近には必ず幼虫がいた。結局この日は、中令1頭を含めて12頭、8月26日の再調査で終令1頭を加えた。

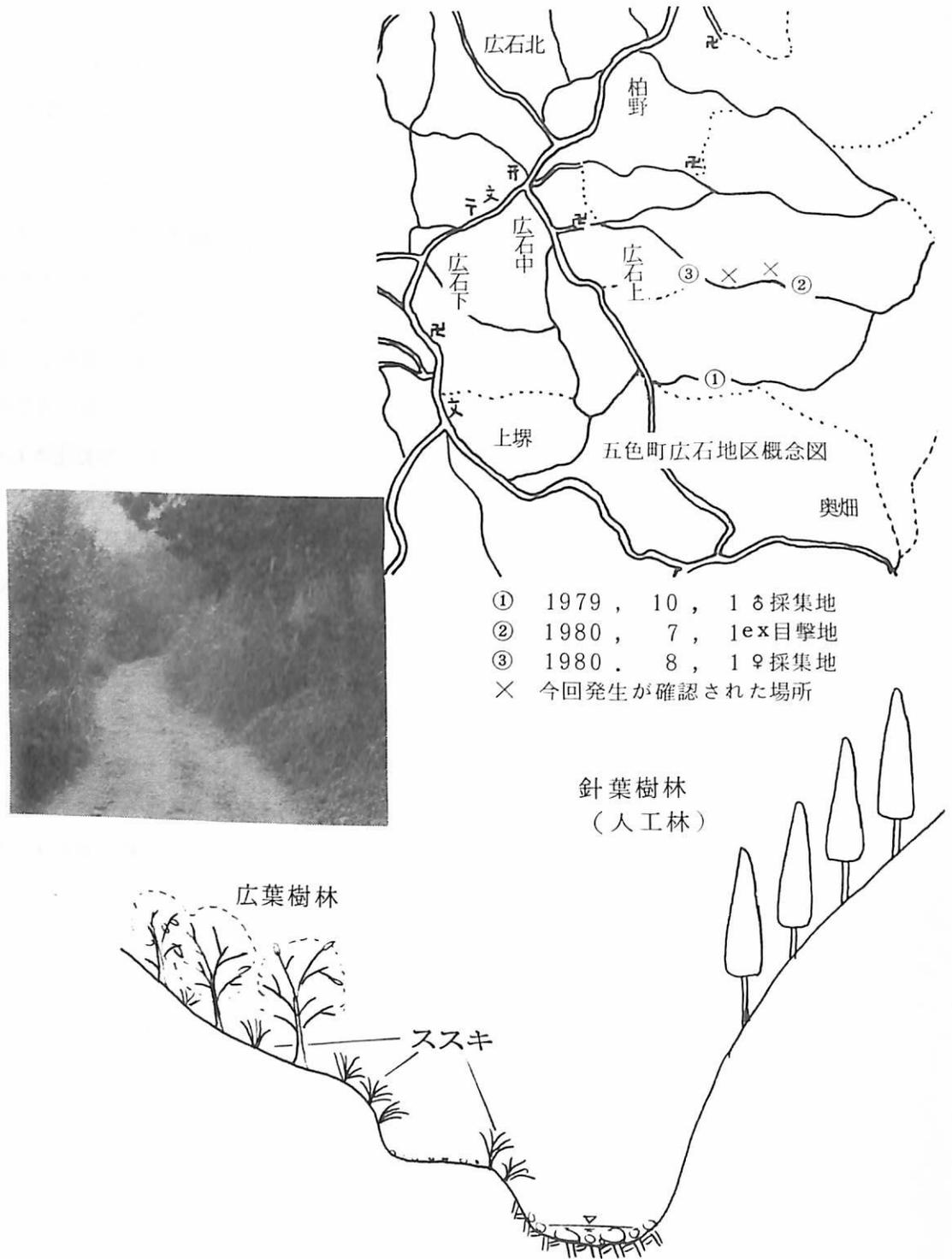


Fig. 1 クロコノマチョウ幼虫棲息地 - 五色町広石 - (上)と模式図(下)

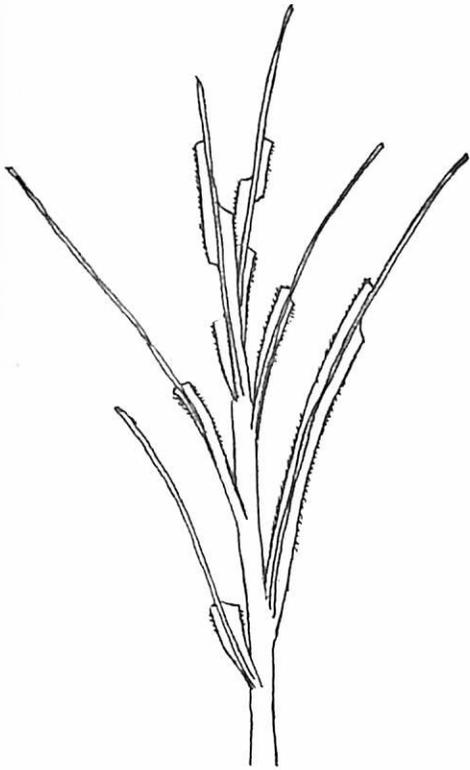


Fig. 2. クロコノマチョウ
終令幼虫の食痕(ススキ)

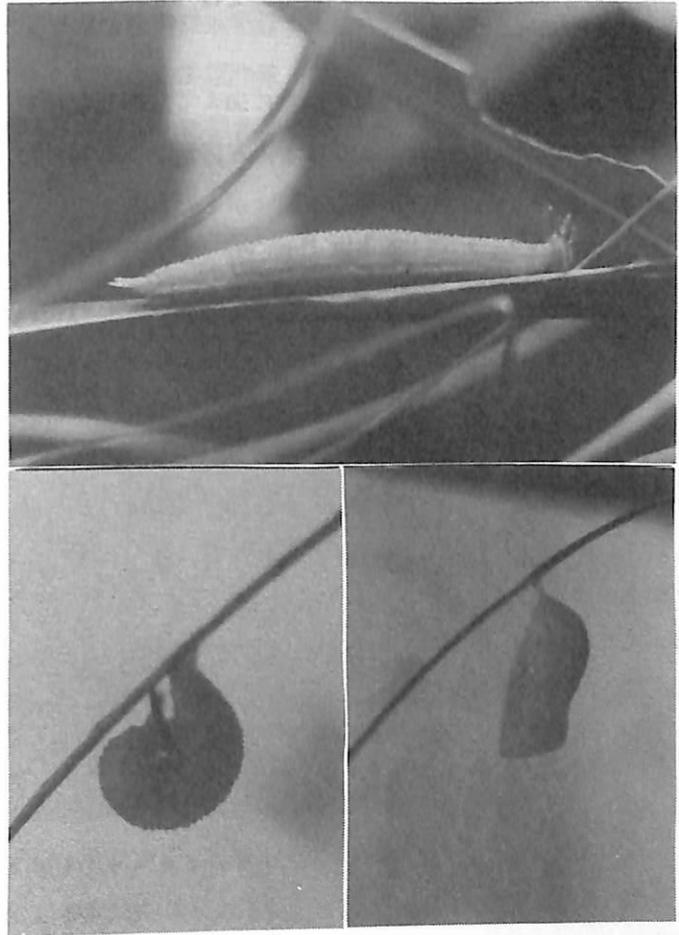


Fig. 3 クロコノマチョウの幼虫(上) 前蛹(左下) 蛹(右下)

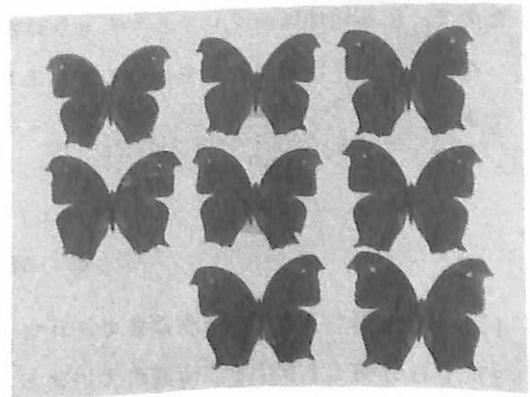
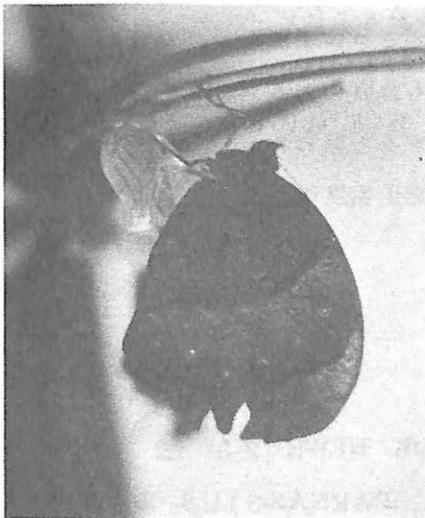


Fig. 4. 羽化直後のクロコノマチョウ(左)と羽化した2♂6♀(右)

飼育方法は、大きなボール箱にススキの水差しを入れた簡単なものだったが、26日1頭、27日5頭、28日3頭、29日1頭が蛹化した。中令幼虫は26日に死亡したが、友人に預けた2蛹2幼虫の他の8蛹については、9月5日4頭、6日3頭、8日1頭が無事羽化した。

終令幼虫には、その体色の濃淡に加えて、頭部に極めてバラエティに富んだ配色があるなど個体変異がめだつた。蛹はほとんど区別がつかないが、幼虫の頭部の変異が、成虫の個体変異とどのような関係があるか興味もたれる。



Fig. 5 クロコノマチョウの幼虫頭部脱皮殻の変異

その後、数回同地を訪れたが、成虫、幼虫とも新たに発見することはできなかった。しかし、当初幼虫がいた谷沿いの道の山側、樹林の下草として自生するススキにもおびただしい食痕があり、昨年、今年と成虫を採集したのとは別の谷筋からも食痕のあるススキを発見したので、広石中地区のクロコノマチョウはかなり広範囲に棲息すると思われる。

今後は、周年同地で調査を行うことにより発生経過、さらに発生密度等も追っていく所存である。

参 考 文 献

- 1) 登日邦明(1971)淡路島でクロコノマチョウ採集, MDK NEWS 23 (2)
- 2) 登日邦明(1975)南淡町大川にクロコノマチョウ産す, PARNASSIUS 16 14

- 3) 浅田卓(1977)南淡町大日ダムでクロコノマチョウ採集, PARNASSIUS ㊦18
- 4) 堀田久(1978)洲本市内でクロコノマチョウを採集, 昆虫と自然 13 (13)
- 5) 浅田卓(1980)津名郡にてクロコノマチョウ採集, PARNASSIUS ㊦22
- 6) 浅田卓(1980)コノマチョウ属2種の採集記録について, PARNASSIUS ㊦23
- 7) 川副昭人・若林守男(1976)原色日本蝶類図鑑, 保育社・大阪
- 8) 福田晴夫ほか(1972)原色日本昆虫生態図鑑(Ⅳ)チョウ編, 保育社・大阪

スミナガシの第3化について

スミナガシ *Dichorragia nesimachus* は, 本州においては年2回の発生が普通である。

筆者は本年(1980年)8月21日, 洲本市三熊山で本種の1令および2令幼虫数頭を採集し, ヤマビワの葉を与えて飼育していたが, 10月1日に第3化のものが羽化したので報告しておく。なお, 同じ頃蛹化した他の蛹はそのまま越冬中である。

第3化の飼育記録

1980年8月23日 1眠起(2令幼虫)
 8月27日 2眠起(3令幼虫)
 8月31日 3眠起(4令幼虫)
 9月5日 4眠起(5令幼虫)
 9月18日 前蛹
 9月19日 蛹化
 10月1日 羽化

(堀田 久)